

Special Feature

特 集

老健施設の ポリファーマシーの取り組み 高齢者施設の服薬簡素化提言

日本老年薬学会は「高齢者施設の服薬簡素化提言」を2024年5月にまとめた。服薬簡素化は「ポリファーマシー対策」に含まれるが、提言では薬剤種類数を減らす減薬とは別に「服薬簡素化」に焦点をあてている。

提言の背景やポイント、今後の課題などについて、同学会の代表理事で、東京都健康長寿医療センターのセンター長をつとめる秋下雅弘さんにうかがった。



インタビュー

高齢者の服用回数を減らし 本人と施設職員の負担軽減に

秋下雅弘さん

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
センター長
一般社団法人 日本老年薬学会 代表理事



高齢者の医薬品の適正使用に向けて
多剤の中身を見直し、服薬困難にも対応

—はじめに高齢者の現状と、その考え方について
おうかがいします。

秋下：薬の使用が多すぎる状況は変わりつつあるとはいえ、依然として少なくないと思います。

厚生労働省の「高齢者の医薬品適正使用の指針」（2018年に総論編、2019年に各論編）でも引用されていますが、75歳以上の約2.5割が7種類以上、4割が5種類以上の薬を1つの薬局から受け取っています。複数の薬局を利用する方もいるので、実際にはさらに多くの薬が処方されています。